

献詠入選歌（一般の部）

一位 少しづつ記憶の薄れ行く父の

笑顔あふれるさくらんぼ狩り

岐阜県岐阜市

田中 恭司

二位 茶道誌のクロスワードをついに解く

明るいうちにギターが弾ける

神奈川県横浜市

内田 しづ江

三位 小菊など庭いっぱい咲かせつつ

親は土地売り施設へという

埼玉県熊谷市

竹井 佐知子

四位 味噌汁のつみれはひとり三つずつ

数は家族につね添い来たり

埼玉県鴻巣市

黒沢 梓

献詠入選歌（小中学生の部）

一位 部屋中に広がるごはんのいい匂い

大人になっても嗅げるだろうか

岩沼市立岩沼中学校

つちだ  
土田

のぞみ  
望実

二位 小6がコロナ禍だった姉が見る

私の修学旅行のしおり

茨城県立下妻第一高等学校附属中学校

やすだ  
安田

あゆみ  
歩実

三位 森の中くらい夜空にとりがいる

とりのなきごえ夜空にひびく

大磯町立国府小学校

みさわ  
三澤

あゆか  
歩佳

四位 かいがんのはなびがきれいじてんしやで

いったかちがあるなつやすみだな

大磯町立大磯小学校

あまの  
天野

はるま  
日喜

献詠入選歌（高校生の部）

一位 妹の書いた書道の「優しさ」が

ちよびつとくたびれて十二月

神奈川県立光陵高等学校

柳原 萌々子  
やなぎはら ももこ

二位 飲み干してスンと冷えてく空き缶に

言われた気がした「フィクションですよ」

茨城県立下館第一高等学校

菅 初菜  
かん はな

三位 なんだろう汽の字みたい不足感、

何が足りない歴史の記述

神奈川県立光陵高等学校

西村 真穂  
にしむら まほ

四位 心臓の鼓動を確かめるように

そつと触った骨格標本

茨城県立下館第一高等学校

小林 滯央  
こばやし みお